

中間支援組織等の検討について

1 中間支援組織・アーツカウンシルについて

(1) 中間支援組織とは

「多面的社会における共生と協働という目標に向かって、地域社会と NPO の変化やニーズを把握し、人材、資金、情報などの資源提供者と NPO の仲立ちをしたり、また、広義の意味では各種サービスの需要と供給をコーディネートする組織」（平成 13 年内閣府『中間支援組織の現状と課題に関する調査報告』）

(2) アーツカウンシルとは

「日本語では芸術評議会などと訳され、欧米諸国やシンガポール、韓国など、世界各国で設置されています。それぞれ国の特性や文化政策の方針に沿った事業、運営が行われており、一概に定義するのは困難ですが、『芸術文化に対する助成を基軸に、政府と一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門機関』（「文化庁月報」平成 23 年 10 月号より）

2 中間支援組織・アーツカウンシル等の必要性について

(1) 「創造都市・浜松」実現に向けた基本方針

浜松市を創造都市へと牽引するプロジェクト

- (2) 創造性あふれる市民活動の創設
- ③ 創造的活動を支援する制度の創設
- ④ 人と人、活動と活動をつなぐコーディネート機能の充実

(2) 市長の議会答弁

「創造都市を推進するためには、民間主体の取り組みがより活発に行われるよう、対策を講じることが不可欠です。そのための仕組みとしては、民間の取り組みと行政の施策をつなぎ、活動を支える機能を担う中間支援組織や、行政と一定の距離を置いた専門機関として文化政策を担うアーツカウンシルなどの仕組みがございませう。中間支援組織については横浜、アーツカウンシルについては東京や大阪の先行事例はございませうが、各々の仕組みは地域の実情に合わせて異なっております。このため、浜松版中間支援組織やアーツカウンシルの仕組みについても、推進会議などで調査・研究を行い、必要な支援体制を整えてまいります。」（平成 26 年 11 月議会における波多野議員（自由民主党浜松）の質問に対する答弁）

3 調査研究の方法

浜松版中間支援組織等のあり方について、静岡文化芸術大学に共同研究を委託するとともに、研究成果に基づき推進会議において検討する。

必要に応じて専門家を交えて推進会議を開催する。

- 専門部会については、推進会議で浜松版中間支援組織等のあり方がまとまった段階で設置を検討する。

調査研究は必要に応じて 28 年度も継続する。

(スケジュール案)

「静岡文化芸術大学による共同研究」

平成 27 年度中 中間報告

平成 27 年度末 成果報告

「浜松市創造都市推進会議での検討」……～平成 28 年度

研究成果に基づき新組織設置や既存組織の機能強化など具体化を検討

「浜松版中間支援組織の準備」……平成 29 年度

「浜松版中間支援組織の運用開始」……平成 30 年度～